



TITLE:

法令

AUTHOR(S):

CITATION:

法令. 經濟論叢 1931, 32(5): 894-904

ISSUE DATE:

1931-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130023>

RIGHT:

京都市大學經濟學會 經濟論叢

第三十二卷 第五號

昭和六年五月一日發行

論叢

人稅物稅の分界並に特徵……………法學博士 神戶正雄
人口密度と經濟生活……………經濟學博士 沙見三郎
數學的經濟學の論理的構造の批判……………文學博士 米田庄太郎

說苑

米の生産地と消費地の對立……………經濟學士 谷口吉彦
信用と資本……………經濟學士 中谷實
國勢調査に於ける人口の概念……………經濟學士 岡崎文規

雜錄

都市公企業の財政的意味……………經濟學士 大谷政敬
植民的活動に於ける政治的支配に就いて……………經濟學士 金持一郎
歷史哲學に就いて……………經濟學士 竹中靖一
ルドウエルの『綜合經濟學』概念……………經濟學士 桑原晋
ムウアの『綜合經濟學』概念……………經濟學士 桑原晋

法令

地租法・營業收益稅法中改正法律・砂糖消費稅法中改正法律・織物消費稅法中改正法律

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

（禁轉載）

地租法

第一章 總則

法律第二十八號 (昭和六年三月三十日)

第一條

本法施行地ニ在ル土地ニハ本法ニ依リ地租ヲ課ス
左ニ掲グル土地ニハ地租ヲ課セズ但シ有料借地ナル
トキハ此ノ限ニ在ラズ

第二條

一 國、府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體
ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地
二 府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於
テ公用又ハ公共ノ用ニ供スルモノト決定シタル其ノ所有
地但シ其ノ決定ヲ爲シタル日ヨリ一年內ニ公用又ハ公共
ノ用ニ供セザルモノヲ除ク

第三條

府縣社地、鄉村社地、招魂社地

第四條

墳墓地

第五條

公衆用道路、鐵道用地、軌道用地、運河用地

第六條

用惡水路、溜池、堤塘、井溝

第七條

保安林

第三條

價格 (無租地及承租年期地ニ付テハ貸賃價格ヲ除ク)ヲ定

第四條

稅務署ニ土地臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登錄ス

一

土地ノ所在

- 第三十二卷 八九四 第五號 一四二
- 五 賃賃價格
 - 六 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
 - 七 賃權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的
タル土地ニ付テハ其ノ賃權者又ハ地上權者ノ住所及氏名
又ハ名稱
 - 本法ニ定ムルモノノ外土地臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ命令
ヲ以テ之ヲ定ム
 - 第五條 地番ハ市町村、大字、字又ハ之ニ準ズベキ地域ヲ以
テ地番區域トシ其ノ區域毎ニ起番シテ之ヲ定ム
 - 第六條 有租地ノ地目ハ土地ノ種類ニ從ヒ左ノ如ク區別シテ
之ヲ定ム
 - 第一類地 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地
 - 第二類地 池沼、山林、牧場、原野、雜種地
 - 無租地ノ地目ハ第二條第三號乃至第七號ノ土地ニ在リテハ
各其ノ區別ニ依リ、其ノ土地ニ在リテハ其ノ現況ニ依
リ適當ニ區別シテ之ヲ定ム
 - 第七條 地積ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム
 - 一 宅地及鑛泉地ノ地積ハ平方メートルヲ單位トシテ之ヲ
定メ一平方メートルノ百分ノ一未満ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
 - 二 宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハアルヲ單位トシテ
之ヲ定メ一アルノ百分ノ一未満ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但
シ一筆ノ地積一アルノ百分ノ一未満ノ端數ナルモノニ付テハ
一アルノ一萬分ノ一未満ノ端數ヲ切捨ツ
 - 第八條 地租ノ課稅標準ハ土地臺帳ニ登錄シタル賃賃價格ト
ス
 - 賃賃價格ハ貸主ガ公課、修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナ
ル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃賃スル場合ニ於テ貸主
ノ收得スベキ一年分ノ金額ニ依リ之ヲ定ム
 - 第九條 賃賃價格ハ十年毎ニ一般ニ之ヲ改訂ス第一回ノ改訂
ハ昭和十三年ニ於テ之ヲ行フ
 - 前項ノ改訂ニ關スル事項ハ其ノ都度別ニ之ヲ定ム
 - 土地ノ異動ニ因リ賃賃價格ヲ設定シ又ハ修正スル必要アル

トキハ種類ノ賃貸價格ニ比準シ其ノ土地ノ品位及情況ニ應
ジ之ヲ定ム

第十條 地租ノ稅率ハ百分ノ三・八トス

第十一條 地租ハ毎年左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一 宅地租

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限 年額ノ二分ノ一

第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限 年額ノ二分ノ一

二 田租

第一期 翌年一月一日ヨリ三十一日限 年額ノ四分ノ一

第二期 翌年二月一日ヨリ末日限 年額ノ四分ノ一

第三期 翌年三月一日ヨリ三十一日限 年額ノ四分ノ一

第四期 翌年五月一日ヨリ三十一日限 年額ノ四分ノ一

三 其ノ他

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限 年額ノ二分ノ一

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限 年額ノ二分ノ一

特別ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付
テハ勅令ヲ以テ特別ノ納期ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 地租ハ納期開始ノ時ニ於テ土地臺帳ニ所有者トシ
テ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス

但シ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定メ
ル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ質權者又ハ地
上權者トシテ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス

第十三條 土地ノ異動アリタル場合ニ於テハ地番、地目、地積
及賃貸價格ハ土地所有者ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ若ハ
申告ヲ不相當ト認ムルトキ又ハ申告ヲ要セザルトキハ稅務
署長ノ調査ニ依リ稅務署長之ヲ定ム

第二章 土地ノ異動

第一節 有租地及無租地ノ轉換

第十四條 本法ニ於テ無租地ト稱スルハ地租ヲ課セザル土地
(免租年期地、災害免租地及自作農免租地ヲ含メズ)ヲ謂ヒ
有租地ト稱スルハ其ノ他ノ土地ヲ謂フ

第十五條 無租地ガ有租地ト爲リタルトキ又ハ有租地ガ無租

地ト爲リタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長
ニ申告スベシ但シ有租地ガ無租地ト爲リタル場合ニ於テ之

ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ若ハ申告ヲ爲シタルモノ又ハ
官公署ニ於テ公示シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地ヲ生ジタルトキハ
當該地番區域內ニ於ケル最終ノ地番ヲ追ヒ順次其ノ地番ヲ
定ム但シ特別ノ事情アルトキハ適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ
得

第十七條 新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地ヲ生ジタルトキハ
直ニ其ノ地目ヲ設定ス

土地臺帳ニ登錄セラレタル無租地ガ有租地ト爲リ又ハ有租
地ガ無租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第十八條 新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地ヲ生ジタルトキハ
直ニ之ヲ測量シテ其ノ地積ヲ定ム

土地臺帳ニ登錄セラレタル無租地ガ有租地ト爲リタルトキ
ハ直ニ其ノ地積ヲ改測ス但シ其ノ地積ニ異動ナシト認ムル
トキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 國有財産法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與
ノ豫めヲ爲シタル土地ニシテ開拓ノ事業成功ニ因リ賣拂又
ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノニ付キハ土地所有者ノ
申請ニ依リ有利地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開
拓減租年期ヲ許可シ年期中ハ其ノ原地(開拓前ノ土地)相當
ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更ニ
十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

第二十條 國有財産法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與
ノ豫めヲ爲シタル土地ニシテ増立(子拓ヲ含ム)ノ事業成功
ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有利地ト爲リタルモノ又ハ公有
水面埋立法第二十四條若ハ第五十條ノ規定ニ依リ増立地ノ
所有權ヲ取得シ有租地ト爲リタル土地ニ付テハ土地所有者
ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ六十年ノ
埋立免租年期ヲ許可ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更ニ

十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

第二十一條 前二條ノ規定ニ依リ開拓減租年期又ハ埋立免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ有租地ト爲リタル日ヨリ六十日以内ニ、開拓減租年期又ハ埋立免租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第二十二條 開拓減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ開拓減租年期ハ消滅ス

開拓減租年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃賃價格ハ之ヲ修正セズ

埋立免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第二十三條 開拓減租年期地又ハ埋立免租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了ノ申告書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第二十四條 無租地ガ有租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ賃賃價格ヲ設定ス

開拓減租年期地ニ付テハ有租地ト爲リタルトキ直ニ原地相當ノ賃賃價格ヲ設定シ開拓減租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

埋立免租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ設定ス

第二十五條 開拓減租年期又ハ埋立免租年期ノ滿了ニ因リ賃賃價格ヲ設定シ又ハ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第二十六條 無租地ガ有租地ト爲リタルトキハ賃賃價格ヲ設定(第二十四條第三項ノ設定ヲ含ム)シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

開拓減租年期ノ滿了ニ因リ賃賃價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃賃價格ニ依

リ地租ヲ徵收ス

第二十七條 有租地ガ無租地ト爲リタルトキハ其ノ申告ヲ要スルモノニ付テハ申告アリタル後ニ開始スル納期ヨリ、其ノ申告ヲ要セザルモノニ付テハ稅務署長ガ其ノ事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セズ

第二節 分筆及合筆

第二十八條 本法ニ於テ分筆ト稱スルハ一筆ノ土地ヲ數筆ノ土地ト爲スヲ謂フ

第二十九條 分筆又ハ合筆ヲ爲サントスルトキハ土地所有者ハ之ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第三十條 一筆ノ土地ノ一部ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ前條ノ申告ナキ場合ニ於テモ稅務署長ハ其ノ土地ヲ分筆ス

一 別地目ト爲ルトキ

二 無租地ガ有租地ト爲リ又ハ有租地ガ無租地ト爲ルトキ

三 所有者ヲ異ニスルトキ

四 賃權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ

五 地番區域ヲ異ニスルトキ

第三十一條 分筆シタル土地ニ付テハ分筆前ノ地番ニ符號ヲ附シテ各筆ノ地番ヲ定ム

合筆シタル土地ニ付テハ合筆前ノ地番中ノ首位ノモノヲ以テ其ノ地番トス

特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條 分筆ヲ爲シタルトキハ測量シテ各筆ノ地積ヲ定ム

合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ地積ヲ合筆シタルモノヲ以テ其ノ地積トス

第三十三條 分筆ヲ爲シタルトキハ各筆ノ品位及情況ニ應ジ

分筆前ノ賃貸價格ヲ配分シテ其ノ賃貸價格ヲ定ム
合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ賃貸價格ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ賃貸價格トス

第三節 開 墾

第三十四條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ第二類地ヲ第一類地ト爲スヲ謂フ

第三十五條 開墾成功シタルトキハ土地所有者ハ三十日以内ニ之ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第三十六條 開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開墾減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地(開墾前ノ土地)相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年内ニ開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ之ヲ許可セズ
二十年内ニ成功シ能ハザル開墾地ニ付テハ前項ノ年期ハ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年トス
前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更に十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得
宅地又ハ鑛泉地ト爲ス開墾地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ開墾減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第三十七條 前條ノ規定ニ依リ開墾減租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ開墾著手ノ日ヨリ三十日以内ニ、開墾減租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第三十八條 開墾減租年期中ニ於テ開墾成功シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付テハ地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃貸價格ハ之ヲ修正セズ

開墾減租年期中ニ於テ其ノ原地ニ付テハ地目變換ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付テハ地類變換ヲ爲シタルトキハ開墾減租年期ハ消滅ス

第三十九條 開墾減租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

出スベシ

第四十條 開墾成功シタルトキハ(開墾減租年期中ナルト否トヲ問ハズ)直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第四十一條 開墾成功シタルトキハ開墾減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

開墾減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ修正ス但シ年期滿了スルモ尙開墾成功セザル土地ニ付テハ開墾成功シタルトキ直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス
第四十二條 開墾ニ因リ賃貸價格ヲ修正スル場合ニ於テハ其ノ地積ヲ改測ス但シ其ノ地積ニ異動ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條 開墾ニ因リ地目又ハ賃貸價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第四節 地目變換及地類變換

第四十四條 本法ニ於テ地目變換ト稱スルハ第一類地中又ハ第二類地中ノ各地目ヲ變更スルヲ謂ヒ地類變換ト稱スルハ第一類地ヲ第二類地ト爲スヲ謂フ

第四十五條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ土地所有者ハ三十日以内ニ之ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第四十六條 二十年内ニ成功シ能ハザル地目變換地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ地目變換著手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年ノ地目變換減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地(變換前ノ土地)相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更に十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ニ變換スル土地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ地目變換減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第四十七條 前條ノ規定ニ依リ地目變換減租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ地目變換著手ノ日ヨリ三十日以内ニ、地目變換減租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル

年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第四十八條 地目變換減租年期中ニ於テ其ノ原地又ハ變換地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃賃價格ハ之ヲ修正セズ

地目變換減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期中ハ消滅ス

第四十九條 地目變換減租年期中ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期中滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第五十條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ(地目變換減租年期中ナルト否ト問ハズ)直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第五十一條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期中ニ付テハ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

地目變換減租年期中ニ付テハ其ノ年期中滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ修正ス但シ年期中滿了スルモ尙地目變換セザル土地ニ付テハ地目變換シタルトキ直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

第五十二條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ賃賃價格ヲ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第五十三條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ地目又ハ賃賃價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五節 荒地免租

第五十四條 本法ニ於テ荒地ト稱スルハ災害ニ因リ地形ヲ變ジ又ハ作土ヲ損傷シタル土地ヲ謂フ

第五十五條 荒地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ荒地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ十五年内ノ荒地免租年期中許可ス更ニ十五年内ノ年期中延長ヲ許可スルコトヲ得

海、湖又ハ河川ノ狀況ト爲リタル荒地ニ付テハ前項ノ延長年期中二十年内トス其ノ年期中滿了スルモ尙海、湖又ハ河川

ノ狀況ニ在ルモノハ本法ノ適用ニ付テハ海、湖又ハ河川ト爲リタルモノト看做ス

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ荒地免租年期中許可ヲ受ケントスル者ハ稅務署長ニ申請スベシ

荒地免租年期中延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期中滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第五十七條 荒地免租年期中ニ付テハ免租年期中許可ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セズ

第五十八條 荒地免租年期中ノ土地ガ再び荒地ト爲リ免租年期中ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ノ年期中ハ消滅ス

第五十九條 開拓減租年期中、埋立免租年期中、開墾減租年期中ハ地目變換減租年期中ノ土地ニ付荒地免租年期中許可シタルトキハ其ノ許可ヲ爲シタル年ヨリ荒地免租年期中滿了ニ至ル迄ハ開拓減租年期中、埋立免租年期中、開墾減租年期中又ハ地目變換減租年期中ハ其ノ進行ヲ止ム

前項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除シタル土地ニ付荒地免租年期中許可シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 荒地免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期中滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第六十一條 荒地免租年期中ニ付テハ納稅義務者ハ年期中滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期中滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第六十二條 荒地免租年期中ニ付テハ其ノ年期中滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ設定ス

第六十三條 荒地免租年期中滿了ニ因リ賃賃價格ヲ設定スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第六十四條 荒地免租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定シタル土地ニ付テハ其ノ設定ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第三章 災害地免租

第六十五條 北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ年分地租ハ之ヲ免除ス

第六十六條 地目變換若ハ開墾成功ノ申告アリタル土地又ハ耕地整理工事完了シ賃貸價格配賦ノ申出アリタル土地ニシテ未ダ土地臺帳ヲ更正セザルモノニ付テハ其ノ成功地目ガ田畑ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十七條 前二條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ明ニシテ稅務署長ニ申請スベシ

第六十八條 前條ノ申請アリタルトキハ被害ノ調査中其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第六十九條 第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セズ

第四章 自作農地免租

第七十條 田畑地租ノ納期開始ノ時ニ於テ納稅義務者（法人ヲ除ク）ノ住所都市町村及隣接市町村内ニ於ケル田畑賃貸價格ノ合計金額ガ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ田畑ノ當該納期分地租ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除ス但シ小作ニ付シタル田畑ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

民法施行前ヨリ引續キ存スル永小作權ニ付其ノ設定ノ當時舊來ノ慣行ニ依リテ小作料支拂ノ外當該田畑ノ地租ノ全額ヲ永小作權者ニ於テ負擔スルコトヲ約シタル田畑ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ永小作權者ヲ所有者ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十一條 前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者

ハ毎年三月中ニ住所都市町村ヲ經由シ稅務署長ニ申請スベシ
前項ノ申請期間經過後新ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第五章 地租徵收

第七十二條 稅務署長ハ土地ノ異動其ノ他地租徵收ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ市町村ニ通知スベシ

第七十三條 地租ハ各納稅義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル同一地目ノ賃貸價格ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徵收ス但シ賃貸價格ノ合計金額ガ一圓ニ滿タザルトキハ地租ヲ徵收セズ
田、畑、宅地以外ノ土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十四條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ納期開始前十五日迄ニ賃貸價格及地租ノ總額並ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ稅務署長ニ報告スベシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スベシ
第七十五條 市町村ハ第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ノ賃貸價格ノ總額ヲ前條ノ例ニ準ジ稅務署長ニ報告スベシ

第七十六條 大藏大臣ハ稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ隨時市町村ニ於ケル國稅徵收ニ關スル事務ヲ監督セシムベシ

第六章 雜則

第七十七條 他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ヲ免除シタル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第五十七條及第六十條乃至第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 稅務署長土地ノ異動ニ因リ地番、地目、地積又

ハ賃賃價格ヲ土地臺帳ニ登錄シタルトキ又ハ登錄ヲ變更シタルトキハ土地所有者及納稅義務者ニ通知スベシ
第七十九條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市町村內ニ現住セザルトキハ地租ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ市町村內ニ現住スル者ニ就キ納稅管理人ヲ定メ當該市町村長ニ申告スベシ

第八十條 土地所有者ニ變更アリタル場合ニ於テハ舊所有者ガ爲スベカリシ申告ハ所有者ノ變更アリタル日ヨリ三十日內ニ新所有者ヨリ之ヲ爲スベシ

第八十一條 本法ニ依リ土地所有者ヨリ爲スベキ申告又ハ申請ハ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ登錄セラレタル質權者又ハ地上權者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第八十三條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ地租ヲ連脱シタル者ハ其ノ連脱シタル税金ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ地租ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ

第八十四條 本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サズ仍テ地租ニ不足額アルトキハ直ニ之ヲ徵收ス
第八十五條 前二條ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收スル場合ニ於テハ第七十三條ノ規定ニ拘ラズ當該土地一筆毎ニ其ノ地租ヲ算出ス

第八十六條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ土地ノ檢査ヲ爲シ又

ハ土地ノ所有者、質權者、地上權者其ノ他利害關係人ニ對シ必要ナル事項ヲ質問スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ土地ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ゲタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第八十八條 本法ハ國有地ニ之ヲ適用セズ
第八十九條 府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セザル土地ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得但シ所有者以外ノ者同條第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其ノ土地ニ付使用者ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

第九十條 本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限リ第十條ノ規定中百分ノ三・八トアルハ百分ノ四、第十一條ノ規定中宅地租第一期其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限、其ノ他第一期其ノ年九月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、其ノ他第二期其ノ年十一月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年三月一日ヨリ三十一日限、第七十一條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス
第九十一條 左ノ法律ハ之ヲ廢止ス但シ昭和五年分以前ノ地租ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

地租條例
租ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

災害地地租免除法
宅地地價修正法

明治七年第二百二十號布告地所名稱區別

明治三十四年法律第三十號

明治三十四年法律第三十一號

明治三十七年法律第十二號

明治三十七年法律第十六號

大正十五年法律第四十七號

第九十二條 土地賃賃價格調査法ニ依リ賃賃價格ノ調査ヲ爲シタル土地ニ付テハ同法ニ依リ調査シタル賃賃價格ヲ以テ本法施行ノ際ニ於ケル賃賃價格トス但シ其ノ賃賃價格ニ依リ算出シタル本法ノ地租額ガ從前ノ地價ニ依リ算出シタル舊法ノ地租額ノ三倍八割ヲ超ユル土地ニ在リテハ舊法ノ地租額ノ三倍八割ニ相當スル金額ヲ百分ノ三・八ヲ以テ除シタル金額ヲ以テ其ノ賃賃價格トス

第九十三條 大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ地價ヲ設定シ又ハ修正シタル土地（免租年期又ハ低價年期ノ滿了ニ因リ原地價ニ復シタルモノヲ含ム）ニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準ジ其ノ賃賃價格ヲ定ム

大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ分筆又ハ合筆ヲ爲シタル土地ニ付テハ第三十三條ノ例ニ準ジ前條ノ賃賃價格ヲ配分又ハ合算シテ其ノ賃賃價格ヲ定ム

第九十四條 舊法ニ依リ低價年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ原地價ニ復セザルモノニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準ジ其ノ賃賃價格ヲ定ム

第九十五條 前三條ノ規定ニ依リ賃賃價格ヲ定メタル土地ニ付テハ昭和六年分ヨリ本法ニ依リ地租ヲ徵收ス

第九十六條 本法施行前ニ於ケル土地ノ異動中本法施行ノ際未ダ舊法ニ依リ地價ノ設定又ハ修正其ノ他ノ處分ヲ爲サザルモノニシテ本法中之ニ相當スル規定アルモノニ關シテハ本法ヲ適用ス但シ第九十一條但書ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ
第九十七條 舊法ニ依ル届出又ハ申請ニシテ本法中之ニ相當

スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依ル申告又ハ申請ト看做ス
第九十八條 舊法ニ依リ開墾ノ届出アリタル土地ニシテ本法施行ノ際開墾著手後未ダ二十年ヲ經過セザルモノハ第三十六條第一項ノ規定ニ依リ開墾減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年内ニ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十九條 舊法ニ依リ免租年期、減下年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ其ノ年期ノ滿了セザルモノハ左ノ區分ニ從ヒ本法ニ依リ免租年期又ハ減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス

一 地租條例第十六條第三項ノ減下年期ハ第三十六條第二項ノ開墾減租年期トス

二 地租條例第十六條第四項ノ減下年期ハ第十九條第一項ノ開墾減租年期トス

三 地租條例第十六條第五項ノ新開免租年期ハ第二十條第一項ノ埋立免租年期トス

四 地租條例第十六條第六項ノ地價据置年期ハ第四十六條第一項ノ地目變換減租年期トス

五 明治三十四年法律第三十號ノ年期延長ハ前各號ノ例ニ準ジ第十九條第二項、第二十條第二項、第三十六條第三項又ハ第四十六條第二項ノ年期延長トス

六 地租條例第二十條ノ荒地免租年期ハ第五十五條第一項ノ荒地免租年期トス

七 地租條例第二十三條又ハ第二十四條ノ免租繼年期ハ荒地ノ種類ニ從ヒ第五十五條第二項又ハ第三項ノ年期延長トス

前項ノ年期ハ舊法ニ依リ許可セラレタル年期ノ殘年期間ノ經過スル年ノ翌年ニ於テ滿了ス
第一百條 地積ハ第七條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

法令

一 宅地及鑛泉地ノ地積ハ六尺平方ヲ坪、坪ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勾トシテ之ヲ定メ勾未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

二 宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハ六尺平方ヲ步、三十步ヲ畝、十畝ヲ段、十段ヲ町トシテ之ヲ定メ步未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ一筆ノ地積一步未滿ナルモノニ付テハ步ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勾トシテ之ヲ定メ勾未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第一百條 舊法ノ土地臺帳ハ之ヲ本法ノ土地臺帳ト看做ス

第一百二條 小笠原島及伊豆七島ノ地租ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

〔參照〕

明治三十四年(四月十三日公布)法律第三十號ハ鐵下年期、新開免租年期、地價据置年期ノ延長ニ關スル件、同年(同月同日公布)法律第三十一號ハ開墾地、開拓地、新開地年期繼續ニ關スル件、同三十七年(四月一日公布)法律第十二號ハ地租徵收ニ關スル件、同年(同月同日公布)法律第十六號ハ渡良瀬川沿岸地方特別地價修正ノ件、大正十五年(三月三十一日公布)法律第四十七號ハ舊慣ニ依リ永小作權者カ地租負擔額ヲ約シタル田畑ノ地租免除ニ關スル件ナリ

營業收益稅法中改正

法律第四十七號 (昭和六年四月一日)

營業收益稅法中左ノ通改正ス

第十條 第一項ヲ左ノ如ク改ム

營業收益稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

法人

百分ノ三・四

個人

純益金額千圓以下ナルトキ 百分ノ二・二

第三十二卷

九〇二

第五號

一五〇

純益金額	千圓以下ノ金額	百分ノ二・二
千圓ヲ超	千圓ヲ超ニル金額	百分ノ二・六

附則

本法ハ個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和六年分ヨリ、法人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和七年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ昭和六年分ノ個人ノ營業收益稅ニ限リ改正規定中百分ノ二・二トアルハ百分ノ二・五、百分ノ二・六トアルハ百分ノ二・八トス

昭和七年三月三十一日以前ニ終了スル事業年度分ノ法人ノ營業收益稅及昭和五年分以前ノ個人ノ營業收益稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

〔參照〕

大正十五年(三月二十七日公布)法律第十一號營業收益稅法抄錄

第十條第一項

營業收益稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

法人

百分ノ三・六

個人

百分ノ二・八

砂糖消費稅法中改正

法律第四十八號 (昭和六年四月一日)

砂糖消費稅法中左ノ通改正ス

第三條 消費稅ノ割合左ノ如シ

一 砂糖

第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲 樽入黑糖 百斤ニ付 九十錢

乙 樽入白下糖但シ分密シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新

式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

丙其ノ他ノモノ

百斤ニ付 一圓八十錢
百斤ニ付 二圓二十五錢

第二種 砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖

百斤ニ付 四圓五十五錢

第三種 砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖

百斤ニ付 六圓七十五錢

第四種 砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖

百斤ニ付 七圓七十五錢

第五種 氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ

百斤ニ付 九圓五十錢

二 糖密

第一種 氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖密

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ

乙 其ノ他ノモノ

糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付 七圓七十五錢ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

第二種 其ノ他ノ糖密

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ

乙 其ノ他ノモノ

三 糖水

附 則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
左ニ掲クル砂糖、糖密又ハ糖水ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

一 本法施行前消費稅ヲ課スヘカリシモノ

二 本法施行前製造場若ハ保稅地域ヨリ引取り又ハ製造場外ニ移出シタルモノニシテ第五條第三項、第七條第三

法令

項又ハ第十一條ノ一第三項ノ規定ニ依リ消費稅ヲ徵收スヘキモノ

三 本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ

〔參照〕

明治三十四年(三月三十日公布)法律第十三號砂糖消費稅

法抄錄

第三條 消費稅ノ割合左ノ如シ

一 砂糖

第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲 樽入黑糖 百斤ニ付 一圓

乙 樽入白下糖但シ分密シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

丙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 二圓

第二種 砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖

第三種 砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖

第四種 砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖

第五種 氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ

百斤ニ付 十圓

二 糖密

第一種 氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖密

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ

乙 其ノ他ノモノ

糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ

百斤ニ付 三圓

法令

糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付
八圓三十五錢ノ割合ヲ以テ算出シタル金額
其ノ他ノ糖密

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分
ノ六十ヲ超エサルモノ

乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 一圓

三 糖水 百斤ニ付 二圓五十錢
百斤ニ付 七圓三十五錢

織物消費稅法中改正

法律第四十九號 (昭和六年四月一日)

織物消費稅中法左ノ通改正ス

第一條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル織物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 綿織物

二 麻又ハ麻ト綿トヲ以テ組成シ其ノ麻ノ單絲カ英式番

手四十二番ヲ超エサル織物

三 經絲ニ綿絲ノミヲ用キ緯絲ニ左ニ掲クル絲ノミヲ用

キタル織物但シ「パイル」組織ノ織物ヲ除ク

イ 紡毛絲

ロ 命令ヲ以テ紡毛絲ト看做シタル絲

ハ 紡毛絲及命令ヲ以テ紡毛絲ト看做シタル絲

ニ 綿絲及イ、ロ又ハハニ掲クル絲

第一條ノ二 前條ニ於テ綿織物ト稱スルハ全重量百分中九

十五以上ノ綿、絹紡細絲、芭蕉絲其ノ他命令ヲ以テ定ム

ル原料ヲ以テ組成スル織物ヲ謂フ

第二條中「百分ノ十」ヲ「百分ノ九」ニ改ム

第二十三條中「綿織物」ヲ「第一條但書ノ織物」ニ改ム

附則

第三十二卷

九〇四

第五號

一五二

本法ハ昭和六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
左ニ掲クル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從來
ノ例ニ依ル

一 本法施行前消費稅ヲ課スヘカリシモノ

二 本法施行前外國輸出若ハ朝鮮移出ノ目的ヲ以テ又ハ第

七條ノ規定ニ依リテ消費稅ヲ納付セスシテ製造場又ハ

保稅地域ヨリ引取リタルモノ

三 本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ

四 本法施行前消費稅ヲ納付シテ外國ニ輸出シ又ハ朝鮮ニ

移出シタルモノ

本法施行前消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル
物品ヲ本法施行後外國ニ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタル場合ニ
於テ第三條第二項ノ規定ニ依リ交付スル金額ハ消費稅額ノ十
分ノ九ニ相當スル金額トス但シ第一條但書ノ改正規定ニ依リ
消費稅ヲ課セサルコトト爲リタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタ
ル物品ニ付テハ第三條第二項ノ規定ヲ適用セス

〔參照〕

明治四十三年(三月二十五日公布)法律第七號織物消費稅

法抄錄

第一條 織物ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ調ス但シ綿織物ニ付

テハ此ノ限ニ在ラス

第一條ノ二 本法ニ於テ綿織物ト稱スルハ全重量百分中九

十五以上ノ綿ヲ以テ組成シ絹、人造絹、金屬絲、金屬線、

金屬箔、漆絲又ハ漆箔ヲ交ヘサル織物ヲ謂フ

絹紡細絲、芭蕉絲其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組

成スル織物ニシテ命令ノ定ムルモノハ之ヲ綿織物ト看做

ス

第二條 消費稅ノ稅率ハ織物ノ價格百分ノ十トス

第二十三條 第十二條、第十四條乃至第十六條、第十八條

第二號第四號及第十九條乃至第二十一條ノ規定ハ綿織物

ニモ之ヲ適用ス

政府ニ申告セスシテ綿織物ヲ製造シタル者ハ五十圓以下

ノ罰金又ハ科料ニ處ス